

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成30年10月10日
【四半期会計期間】	第51期第2四半期（自平成30年6月1日至平成30年8月31日）
【会社名】	株式会社柿安本店
【英訳名】	Kakiyasu Honten Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 赤塚 保正
【本店の所在の場所】	三重県桑名市吉之丸8番地
【電話番号】	(0594)23-5500（代表）
【事務連絡者氏名】	専務取締役 赤塚 義弘
【最寄りの連絡場所】	三重県桑名市吉之丸8番地
【電話番号】	(0594)23-5500（代表）
【事務連絡者氏名】	専務取締役 赤塚 義弘
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第50期 第2四半期連結 累計期間	第51期 第2四半期 累計期間	第50期
会計期間	自平成29年 3月1日 至平成29年 8月31日	自平成30年 3月1日 至平成30年 8月31日	自平成29年 3月1日 至平成30年 2月28日
売上高 (百万円)	21,294	21,430	43,751
経常利益 (百万円)	1,080	975	2,586
親会社株主に帰属する四半期 純利益又は四半期(当期)純利益 (百万円)	683	880	1,609
持分法を適用した場合の投資利益 (百万円)	-	-	-
資本金 (百万円)	1,269	1,269	1,269
発行済株式総数 (千株)	12,446	12,446	12,446
純資産額 (百万円)	13,577	13,798	13,508
総資産額 (百万円)	18,547	18,619	18,356
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	63.88	84.06	151.20
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	55
自己資本比率 (%)	73.2	74.1	73.6
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	883	647	-
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	281	795	-
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	561	622	-
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	6,051	5,833	-

回次	第50期 第2四半期連結 会計期間	第51期 第2四半期 会計期間
会計期間	自平成29年 6月1日 至平成29年 8月31日	自平成30年 6月1日 至平成30年 8月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	29.28	55.94

- (注) 1. 当社は、平成30年6月8日付で連結子会社であった柿安グルメフーズ株式会社を吸収合併したことにより、連結子会社が存在しなくなったため、第51期第2四半期会計期間より四半期連結財務諸表を作成しておりません。したがって、主要な経営指標等の推移については、第50期第2四半期累計期間は四半期連結財務諸表について、第51期第2四半期累計期間は四半期財務諸表について、第50期は財務諸表について記載しております。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため、記載しておりません。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

5. 第50期は連結財務諸表を作成しており、提出会社のキャッシュ・フロー計算書を作成しておりません。そのため、キャッシュ・フロー計算書に関する数値を記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、当社は、平成30年4月11日開催の取締役会の決議に基づき、平成30年6月8日を効力発生日として、連結子会社であった柿安グルメフーズ株式会社を吸収合併いたしました。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクに重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において、当社が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の堅調な改善に支えられ、緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、依然として消費者の節約志向は続いていることから消費マインドの持続的な回復には至らず、個人消費は力強さを欠くものとなりました。また、海外に端を発する貿易摩擦の拡大が懸念される等、政治・経済情勢の不確実性は高まっており、引き続き先行き不透明な状況が続いております。

このような環境の中、当社は、肉食の充実、赤身部位等の選択肢の多様化、ローストビーフをはじめとした肉加工品の人気を受け、肉関連商品の展開強化に注力いたしました。

出退店・改装につきましては、JR岐阜駅に直結したアクティブGに精肉店を出店した他、近鉄百貨店上本町店に「柿安ダイニング」を出店する等、計29店を出店するとともに、入店先施設の改装に合わせる等4店を改装いたしました。一方、7店を退店いたしました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は21,430百万円、営業利益は938百万円、経常利益は975百万円、四半期純利益は880百万円となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(a) 精肉事業

精肉事業につきましては、『赤身小間きれ』、『赤身焼肉切り落とし』等の基幹商品を拡充するとともに、パック商品によるお買い回りのしやすさの向上等に注力いたしました。

出退店・改装につきましては、アクティブGに出店するとともに、イオンモール桑名精肉店を改装いたしました。

この結果、当事業の売上高は7,173百万円、セグメント利益は669百万円となりました。

(b) 惣菜事業

惣菜事業につきましては、人気のローストビーフの新商品『香ばしいガーリックローストビーフ』を追加、柔らかい牛バラ肉をオリジナルの甘辛ダレでさっと焼き上げた『スタミナ焼肉重』等、お肉を主役にしたスタミナ満点の肉関連アイテムの強化による活性化を図りました。

出退店・改装につきましては、近鉄百貨店上本町店に「柿安ダイニング」を出店する等、計4店を出店するとともに、入店先施設の改装に伴い阪神百貨店の2店を改装いたしました。

この結果、当事業の売上高は6,813百万円、セグメント利益は550百万円となりました。

(c) 和菓子事業

和菓子事業につきましては、人気シリーズであるフルーツ大福の夏限定『ピオーネ大福』や涼菓アイテムの『水まんじゅう(こしあん)』を投入、また歳時に応じた商品の販売強化による活性化を図りました。

出退店・改装につきましては、口福堂をはじめ計16店を出店するとともに1店を改装、3店を退店いたしました。

この結果、当事業の売上高は3,673百万円、セグメント利益は200百万円となりました。

(d) レストラン事業

レストラン事業につきましては、柿安の強みを生かした業態開発に注力いたしました。

「しゃぶしゃぶ+ビュッフェ料理」の新ブランド「柿安 Meat Buffet」をテラスモール湘南に出店、また、柿安のこだわりが詰まった親子丼をフードコート型店舗でリーズナブルにご提供する新ブランド「奇跡の親子丼」をイオンモールナゴヤドーム前に出店するとともに、前期から展開を始めた「柿安 Meat Express」をイオンレイクタウンに出店する等、計8店を出店しました。

一方、1店を退店いたしました。

この結果、当事業の売上高は2,711百万円、セグメント利益は76百万円となりました。

(e) 食品事業

食品事業につきましては、柿安のしぐれ煮をご家庭でそのままお召し上がりいただける

『牛肉しぐれ煮丼』の販売強化、また『ピリ辛豆板醤 牛肉夏しぐれ』等、季節のしぐれシリーズの展開により活性化を図りました。

この結果、当事業の売上高は1,059百万円、セグメント利益は121百万円となりました。

なお、前第2四半期累計期間は四半期連結財務諸表を作成し、四半期財務諸表を作成していないため、前年同四半期との比較は行っておりません。(以下、(3)キャッシュ・フローの状況においても同じであります。)

(2) 財政状態の分析

資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末における資産合計は、前事業年度末に比べ263百万円増加し、18,619百万円となりました。

流動資産は83百万円増加し、10,506百万円となりました。主な要因は、売掛金の増加470百万円と現金及び預金の減少287百万円及び仕掛品の減少59百万円等であります。固定資産は180百万円増加し、8,113百万円となりました。主な要因は、差入保証金の増加81百万円及び繰延税金資産の増加52百万円並びに建物の増加41百万円等であります。

当第2四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ26百万円減少し、4,821百万円となりました。

流動負債は61百万円減少し、4,200百万円となりました。主な要因は、未払法人税等の減少189百万円等であります。固定負債は35百万円増加し、620百万円となりました。主な要因は、資産除去債務の増加47百万円等であります。

当第2四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ289百万円増加し、13,798百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の増加304百万円等であります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、5,833百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は647百万円となりました。収入の主な内訳は、税引前四半期純利益1,187百万円、非資金損益項目等の調整を加減した営業取引による収入1,070百万円等に対し、支出の主な内訳は、法人税等の支払額424百万円等であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は795百万円となりました。収入の主な内訳は、定期預金の払戻による収入600百万円等であり、支出の主な内訳は、有形固定資産の取得による支出680百万円、定期預金の預入による支出600百万円等であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は622百万円となりました。支出の主な内訳は、配当金の支払額567百万円等によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更等はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	46,300,800
計	46,300,800

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年8月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年10月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	12,446,700	12,446,700	東京証券取引所 JASDAQ(スタンダード)	単元株式数100株
計	12,446,700	12,446,700	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成30年6月1日～ 平成30年8月31日	-	12,446,700	-	1,269	-	1,074

(6)【大株主の状況】

平成30年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社赤塚興産	三重県桑名市江場1523-1	852	6.8
赤塚 保正	東京都港区	313	2.5
赤塚 安則	三重県桑名市	278	2.2
株式会社百五銀行	三重県津市岩田21番27号	273	2.2
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目2番1号	260	2.1
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8番11号	213	1.7
赤塚 美雪	東京都港区	205	1.7
柿安社員持株会	三重県桑名市吉之丸8番地	200	1.6
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	150	1.2
柿安取引先持株会	三重県桑名市吉之丸8番地	126	1.0
計	-	2,873	23.1

(注) 1. 上記の他、当社所有の自己株式1,978千株(15.9%)があります。

2. 上記大株主の赤塚 安則氏は、平成30年2月2日に逝去されましたが、平成30年8月31日現在における株主名簿上の名義で記載しております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,978,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,465,700	104,657	-
単元未満株式	普通株式 2,300	-	-
発行済株式総数	12,446,700	-	-
総株主の議決権	-	104,657	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が300株(議決権の数3個)含まれております。

【自己株式等】

平成30年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社柿安本店	三重県桑名市 吉之丸8番地	1,978,700	-	1,978,700	15.9
計	-	1,978,700	-	1,978,700	15.9

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号。以下「四半期財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、当社は前第2四半期累計期間は四半期財務諸表を作成していないため、四半期損益計算書及び四半期キャッシュ・フロー計算書に係る比較情報は記載しておりません。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（平成30年6月1日から平成30年8月31日まで）及び第2四半期累計期間（平成30年3月1日から平成30年8月31日まで）に係る四半期財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は、平成30年6月8日を効力発生日とした連結子会社（柿安グルメフーズ株式会社）の吸収合併により、連結対象子会社が存在しなくなったため、当第2四半期累計期間より四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】

(1)【四半期貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成30年2月28日)	当第2四半期会計期間 (平成30年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,721	6,433
売掛金	2,726	3,197
商品及び製品	336	301
仕掛品	211	152
原材料及び貯蔵品	190	184
その他	236	236
流動資産合計	10,423	10,506
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	3,111	3,152
土地	2,255	2,224
その他(純額)	738	764
有形固定資産合計	6,104	6,142
無形固定資産	224	252
投資その他の資産	1,603	1,718
固定資産合計	7,932	8,113
資産合計	18,356	18,619
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,291	1,481
未払法人税等	642	453
賞与引当金	367	373
役員賞与引当金	39	19
その他	1,921	1,872
流動負債合計	4,262	4,200
固定負債		
資産除去債務	508	555
その他	76	65
固定負債合計	585	620
負債合計	4,847	4,821

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成30年2月28日)	当第2四半期会計期間 (平成30年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,269	1,269
資本剰余金	1,074	1,074
利益剰余金	14,685	14,989
自己株式	3,542	3,542
株主資本合計	13,486	13,791
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	21	7
評価・換算差額等合計	21	7
純資産合計	13,508	13,798
負債純資産合計	18,356	18,619

(2) 【四半期損益計算書】
【第2四半期累計期間】

(単位 : 百万円)

	当第2四半期累計期間 (自 平成30年3月1日 至 平成30年8月31日)
売上高	21,430
売上原価	10,807
売上総利益	10,623
販売費及び一般管理費	9,685
営業利益	938
営業外収益	
受取利息	0
受取配当金	1
工事負担金等受入額	24
その他	15
営業外収益合計	41
営業外費用	
支払利息	0
その他	4
営業外費用合計	4
経常利益	975
特別利益	
固定資産売却益	13
抱合せ株式消滅差益	479
特別利益合計	492
特別損失	
固定資産除売却損	50
減損損失	178
その他	51
特別損失合計	279
税引前四半期純利益	1,187
法人税、住民税及び事業税	339
法人税等調整額	31
法人税等合計	307
四半期純利益	880

(3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	当第2四半期累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純利益	1,187
減価償却費	311
減損損失	178
賞与引当金の増減額(は減少)	5
役員賞与引当金の増減額(は減少)	19
受取利息及び受取配当金	1
支払利息	0
有形固定資産除却損	50
有形固定資産売却損益(は益)	13
抱合せ株式消滅差損益(は益)	479
売上債権の増減額(は増加)	335
たな卸資産の増減額(は増加)	99
仕入債務の増減額(は減少)	88
未払金の増減額(は減少)	39
未払消費税等の増減額(は減少)	63
その他	21
小計	1,070
利息及び配当金の受取額	1
利息の支払額	0
法人税等の支払額	424
営業活動によるキャッシュ・フロー	647
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	600
定期預金の払戻による収入	600
有形固定資産の取得による支出	680
有形固定資産の売却による収入	50
差入保証金の差入による支出	60
差入保証金の回収による収入	0
その他	106
投資活動によるキャッシュ・フロー	795
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	50
配当金の支払額	567
その他	4
財務活動によるキャッシュ・フロー	622
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	770
現金及び現金同等物の期首残高	6,121
連結子会社の合併による現金及び現金同等物の増減額(は減少)	483
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,833

【注記事項】

(四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費の主要な費用及び金額

	当第2四半期累計期間 (自 平成30年3月1日 至 平成30年8月31日)
店舗家賃	1,905百万円
給料及び手当	4,458
賞与引当金繰入額	316
役員賞与引当金繰入額	19

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	当第2四半期累計期間 (自 平成30年3月1日 至 平成30年8月31日)
現金及び預金勘定	6,433百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	600
現金及び現金同等物	5,833

(株主資本等関係)

当第2四半期累計期間(自 平成30年3月1日 至 平成30年8月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年5月25日 定時株主総会	普通株式	575	55	平成30年2月28日	平成30年5月28日	利益剰余金

(持分法損益等)

該当事項はありません。

- (企業結合等関係)
- (共通支配下の取引等)

当社は、平成30年4月11日開催の取締役会の決議に基づき、平成30年6月8日付で当社の連結子会社である柿安グルメフーズ株式会社を吸収合併いたしました。

1. 企業結合の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

結合当事企業の名称	柿安グルメフーズ株式会社
事業の内容	しぐれ煮等の販売

(2) 企業結合日

平成30年6月8日

(3) 企業結合の法的形式

当社を存続会社とする吸収合併方式で、柿安グルメフーズ株式会社は解散いたしました。

(4) 結合後企業の名称

株式会社柿安本店

(5) その他取引の概要に関する事項

商品開発、生産及び販売の組織一本化を進め、当社グループの経営資源の集中と組織運営の強化及び経営の効率化を推し進めることを目的としております。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日)に基づき、共通支配下の取引として会計処理を実施しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期累計期間 (自平成30年3月1日至平成30年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	7,173	6,813	3,673	2,711	1,059	21,430	-	21,430	-	21,430
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	622	10	26	13	475	1,147	-	1,147	1,147	-
計	7,795	6,823	3,699	2,725	1,534	22,578	-	22,578	1,147	21,430
セグメント利益	669	550	200	76	121	1,618	-	1,618	680	938

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等でありま
す。

2. セグメント利益の調整額 680百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 699百
万円及びその他調整額18百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属し
ない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「レストラン事業」において、店舗設備の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期累計期間において、178百万円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第2四半期累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
1株当たり四半期純利益金額	84円06銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益金額(百万円)	880
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	880
普通株式の期中平均株式数(千株)	10,467

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年10月10日

株式会社柿安本店

取締役会 御中

東陽監査法人

指 定 社 員
業 務 執 行 社 員 公認会計士 高津 清英 印

指 定 社 員
業 務 執 行 社 員 公認会計士 梶田 哲也 印

指 定 社 員
業 務 執 行 社 員 公認会計士 岡本 徹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社柿安本店の平成30年3月1日から平成31年2月28日までの第51期事業年度の第2四半期会計期間（平成30年6月1日から平成30年8月31日まで）及び第2四半期累計期間（平成30年3月1日から平成30年8月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社柿安本店の平成30年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。